

ICTを活用した模擬授業によって授業改善を推進する校内研修

—主体的・対話的で深い学びを実現する授業を目指して—

近江八幡市立八幡中学校 教諭 柳内 祐樹

キーワード：校内研修、タブレットPC、授業改善

実践の概要

タブレットPCを活用した模擬授業研修に取り組むことで、教員の教科指導力・授業力が向上し、生徒の思考力・判断力・表現力を育むことができるだろう

上記の仮説に基づき、以下の実践を行った。

月一回の校内研究会で、各々のICT機器の活用実践を模擬授業形式で交流する。

1. 目的・目標

(1) 学びに向かう力を育む

昨年12/21に中教審から学習指導要領改訂の答申が出され、「学びに向かう力」という文言が盛り込まれた。授業改善に取り組む本校としては、この『学びに向かう力を育む』ということがミッションであり、本研究の最終目的であると考えます。

(2) 思考力・判断力・表現力を育む

理解していること、できることをどう使うのか。つまり授業で身につけた「知識や技能」を「思考力・判断力・表現力」によってどのように活用するのか、が今後必要とされる学びに向かう力につながるものである。タブレットPCの活用は、そのための有効な手段であると考え、『タブレットPCを活用して思考力・判断力・表現力を育むこと』を本研究のねらいとして位置付けた。

2. 実践内容

2.1 模擬授業研修

授業を見せ合うことが、もっとも授業力の向上につながることは明白である。しかし、授業を1時間公開する、研究授業は、教員や生徒、見る側にとっても負担が大きい。よって、なかなか定期的の実施することが難しく機会を多くつくれない。

そこで、考えたのが、この模擬授業研修である。時間は5～10分で、指導案は不要。生徒ではなく生徒役の教員を相手に行う。これならば、授業者は負担感が少ない。事実、多くの立候補者が出た。1回の研究会につき3名程度が授業し、授業後すぐに小グループに分かれて授業について議論する。

ただ、中学校は教科担任制であるため、専門の教科がある。それゆえに、授業についての議論がしにくいという問題がある。それを解決するために作成したのが右の<分かる・できる授業のための10の視点>である。この視点は教科を問わず授業のベーシックスキルと考えられる。この視点を共有することで授業について意見交流がしやすくなるとともに、教科横断的な視点を意識することにつながった。

<分かる・できる授業のための10の視点>

- ①1度にたった一つの指示を出している。
- ②無駄な言葉がない。
- ③一目でわかる工夫をしている。
- ④リズムとテンポがある。
- ⑤発問・指示が明確であり、しかも全員に伝えている。
- ⑥空白の時間を作らない。
- ⑦指導の途中で何度か達成度の確認をしている。
- ⑧指導内容の配列に必然性がある。
- ⑨「評価」のみでなく、きちんと「評定」をしている。
- ⑩全員をはげましている。

2.2 ICTを体感する

そして、一番大切なことであるICTの活用推進の工夫について述べる。授業者は、模擬授業のなかで必ずICT機器を使用する。教員はそれを見てICTの活用法



写真1 模擬授業研修の様子1

を学ぶ。いくら使い方を説明したところでICTの活用は浸透しない。百聞は一見に如かず。実際に使うところをみて、生徒役になって体験することでICTの効果的

な活用法を学ぶ。これがこの模擬授業研修のもっとも大きなポイントである。年間7回の模擬授業研修を終え、ICT機器の使用率は確実に上がっている。他校に向けた授業公開では、ICTを使っている教室の多さに驚いたという感想が多く寄せられた。

3. 成果

3.1 校内の成果

研究会後の教員のふり返りでは、100%近い割合で肯定的な意見が書かれた。以下に紹介する。

「ICTを使うことで、いつもと違う授業ができるので、子どもの関心をひきやすいのかなと思いました。上手に使うことができたなら、とても効果的なので、これから勉強していきたい。」

「タブレットの使い方が少しわかりました。でも、1人で使うにはまだまだ難しいと思いました。もっと授業で積極的に使っていこうと思います。模擬授業はとてもおもしろかったです。」



写真2 模擬授業研修の様子2

「今までタブレットを活用したことがなかったので（自分自身が機械音痴なので）、タブレットでの授業を避けていたところがありました。子どもたちも視覚教材があった方が、興味が湧くと思うので機会があれば活用していきたいと思います。」

「ちょっとタブレットを使いたくなりました！！」

「音やアニメーションの効果的な使い方が分かり、とても参考になりました。ICTの使い方は考えれば考えるほどあると思いました。」



写真3 模擬授業研修の様子3

「ICTを使う良さ、ICTを使わないとできないところを教えてもらいました。できるところ、できそうなことから私もしてみたいと思いました。」

「3本の模擬授業、どれも新鮮でおもしろかったです。ICT、タブレットがより身近に感じられ、やってみようという意欲が出る校内研をこれからも期待します。ありがとうございました。」

「元気の出る校内研でした。どの先生方の授業も楽しく受けることができ、引き込まれました。たいへん充実した時間で明日からがんばろう！という気持ちになりました。」

3.2 対外の成果

公開授業を参観した教育関係者の感想を紹介する。

「中学校の各クラスでICTを活用した取組がなされていました。電子黒板を有効に活用し、子どもにわかりやすい授業づくりをされているなどと思いました。」



写真4 実際の授業の様子1

「八幡中の公開授業を拝見させて頂きました。主体的・対話的で深い学びに対して、ICT(タブレットPC)を使い、ねらいにせまれていた大変素晴らしい授業でした。」



写真5 実際の授業の様子2

4. 今後に向けて

模擬授業研修での学びが、ICT機器の活用を推進し、授業を改善する。今後もICT機器を活用した模擬授業研修によって、実際の授業におけるICT機器の活用を推進し、主体的・対話的で深い学びを実現する校内研修モデルの研究を続けていきたい。